

# 三好市「旧東祖谷山村」のザトウムシ

クモ・貝類班 (徳島博物同好会)

富島 啓次\*<sup>1</sup>

**要旨:** 新しく三好市に統合された, 旧東祖谷山村内のザトウムシの分布を調査した。特に新しい種は見られなかったが, 旧木屋平村にしか見られなかった, スギモトブラシザトウムシ, マメザトウムシが東祖谷山村側にもみられた。

**キーワード:** ザトウムシ, 分布, マメザトウムシ, ブラシザトウムシ

## 1. はじめに

ザトウムシは珠形綱に属し, 真正クモに似ているが, クモとは異なる点も多い。まず糸腺がなく, 糸を出さない。腹部に明瞭な体節を持つ, また, 頭胸部と腹部が幅広く接していてクモのように細くなっていない。非常に細長い4対の脚をもち, 第2歩脚が最も長く, その先端は触覚のようなはたらきがある。そのため, 第2歩脚を2本とも失うと生存が難しくなる。

クモに比較して, 乾燥に弱く, 湿度の安定した林の中のような環境でなければ生息できないものが多い。林床の落ち葉の中などにすむ土壌性の種も多い。県内では, このような環境が少なくなり, ザトウムシの個体数は年々減少している。

## 2. 東祖谷山村で確認されたザトウムシ類

今回の調査で確認できたザトウムシ類を以下のように報告する。なお, 今回の調査で確認できなかったものは, 過去の採集データも一部加えての報告にしたい。

種名については鶴崎 (1993) の日本産野生生物目録を参照した。

### OPILIONES ザトウムシ目

#### Phalangodidae アカザトウムシ科

##### 1. *Pseudobiantes japonicus* HIRST

ニホンアカザトウムシ

##### 61.8.4. 深淵

体長4~5mmの小型種である。落ち葉の中に住む。

触手は爪のよく発達した捕獲型である。ごく普通種であるが, 今回は採集できなかった。

#### Triaenonychidae ニセタテヅメザトウムシ科

##### 2. *Nippononychus japonicus* (MIYOSI)

ニホンニセタテヅメザトウムシ

##### 06.7.30. 京柱峠

同じく落ち葉の中にすむ体長2~3mmくらいの小型種である。

#### Nipponopsalididae ニホンアゴザトウムシ科

##### 3. *Nipponopsalis abei* (SATO et SUZUKI)

サスマタアゴザトウムシ

##### 06.7.29. 見の越

落ち葉, 朽ち木, 石の下などに生息する。体長2.5mm程度の小型種である。触手は歩脚のように鞭状であるが, 鉋角は体長の倍近くあり強大である。体色は黒く, ゆっくりと歩行する。

\* 1 徳島文理高等学校

Sabaconidae ブラシザトウムシ科

4. *Sabacon pygmaeum* MIYOSI

コブラシザトウムシ

06.7.29. 西島

これも落ち葉の中にすむ。体長2mmのひ弱い感じの虫である。触肢は棒状でブラシのような毛をもつ。

5. *Sabacon makinoi sugimotoi* SUZUKI et TURUSAKI

スギモトブラシザトウムシ

06.7.29. 西島

全種によく似ている。東北地方は中心に分布する。北方系の種である。四国では剣山のみで見られる。

Caddoidae マメザトウムシ科

6. *Caddo agilis* BANKS

マメザトウムシ

06.7.29. 西島

体長3mm足らずの小型種である。県内では佐那河内村剣山以外では見られていない。眼が大きく眼丘は頭胸部の大半を占める。体色は暗褐色で一部銀白色を帯びる。地域によっては雄がほとんど見られない。

Phalangiidae マザトウムシ科

7. *Oligolophus aspersus* (KARSCH)

トゲザトウムシ

06.7.29. 丸笹山 06.7.30. 京柱峠

比較的高地に住む。頭胸部前縁に三本の刺がある。夏には薄い褐色であるが、秋には背甲が黒化し別種になった感じになる。笹の中、樹木の葉の上と広範囲に生息する。

8. *Nelima nigrocoxa* SATO et SUZUKI

ヒコナミザトウムシ

06.7.30. 京柱峠

山地でごく普通に見られる。マザトウムシ科に属するものは脚の長いものが多いが、この種は特に長い。夏には腹面が白いが、秋になると基節から黒くなってくる。

9. *Nelima satoi* SUZUKI

サトウザトウムシ

06.7.29. 菅生谷

前種より少し小ぶりである。湿度の高い滝のしぶきのかかるような所にすむ。

10. *Leiobunum montanum* SUZUKI

ヤマスベザトウムシ

06.7.29. 丸笹山

明るい褐色で眼丘だけが黒い。生息していれば目立つ種であるが、最近、個体数が少なくなった。

11. *Leiobunum japonense japonicum* SUZUKI

オオヒラタザトウムシ

06.7.30. 樫尾祖谷林道

体長は雌で7mmを超える。横幅も広くまさにオオヒラタである。しかし、脚はあまり長くない。

12. *Leiobunum japonicum* MULLER

モエギザトウムシ

06.7.28. 丸石谷

山地に普通に見られる種である。体長は3mm程度と小さいが、脚は長く第2歩脚は8cmを超えている。

13. *Gagrellula ferruginea* (LOMAN)

アカサビザトウムシ

06.7.29. 丸笹山 06.7.30. 京柱峠

明るい褐色である。腹部背甲に黒い帯の斑紋と鋭い刺を持つ。

14. *Gagrellula* sp.

06.7.28. 和田 06.7.30. 樫尾祖谷林道

全種によく似るが、体長、脚長ともやや小型である。全体に黒く、全種より低い所にすみ分けている。

### 3. おわりに

14種を記録したが、このうち比較的珍種について説明したい。

*Sabakon makinoi sugimotoi* スギモトブラシザトウムシはマキノブラシザトウムシの亜種である。マキノブラシザトウムシは北海道特産である。スギモトブラシザトウムシは東北、北陸に生息する。西日本では、広島県北部と、徳島県の剣山で見られる。いずれも標高の高いところである。北方系の種で西日本では遺跡的に分布している。

*Caddo agilis* マメザトウムシも珍種である。日本のマメザトウムシは3種ある。マメザトウムシは四国、本州、北海道に分布する。ヒメマメザトウムシは九州、四国、本州に分布する。アワマメザトウムシは剣山の標本だけである。つまり、剣山にはこの3種がすべて観察できる。いままでは、いずれも木屋平村側であったが、マメザトウムシが東祖谷側で発見できた。

### 文 献

- Suzuki, S. and Tsurusaki, N. 1983. Opilionid Fauna of Hokkaido and its adjacent areas. *Jour. Fac. Sci. Hokkaido Univ.* VI, Zool. 23: pp.195-243.
- 鶴崎展巨, 1993. 日本産野生生物目録—本邦産野性動植物の種の現状—無脊椎動物編 I. 環境庁編: 81~83頁.